



家庭と社会が協同して、乳幼児がすくすく育つ社会に

教育学部 教授 石野 陽子 教授 藤川 雅人 助教 小山 穂菜美

教育学研究科 原 広治

乳幼児がすくすく育つ社会を実現するために、家庭と社会がどのようにその育ちを見守り支えるのか、ということについて、学んで行きます。

まずは、乳幼児の発達について、よく知らなければ支えられません。発達を身体面・認知面・心理社会性の面から理解し、観察の視点を養います。

次に、子どもの親の役割と心理を知り、乳幼児の親の育ちを親身になって支える姿勢を育てます。

そして、乳幼児の発達を見立て支えるための専門職について、その役割と制度、具体的な支援方法について学びます。

さらに、各専門職がどのように連携しながら、乳幼児とその親の育ちを支えるのか、ということについて考えて行きます。

学び手が、乳幼児とその親を温かく支える社会の一員になれるように、教育実践しています。





子どもが、自分自身のことも、他者のことも、 大切にできるように

教育学部 教授 石野 陽子 教授 藤川 雅人 助教 小山 穂菜美

社会には、子どもたちを取り巻く様々な課題があります。その課題を整理してみると、子どもの個性とその発達、人間関係の構築や維持、社会との関わりを、直接的にも間接的にもおびやかすものが存在していることがある、ということが分かります。それらが存在するがゆえに、子どもたちは、他者を傷つけたり、自分自身を傷つけたりすることがあります。

そんな悲しいことが起こらないために、自分のことも、他者のことも大切にできる心を育みたい。そのために何ができるのか、ということについて、考える機会を作っています。

対応について答えが出ているものではなく、例えば学校現場でも試行錯誤しながら事に当たっています。ですので、対応することの困難さを知り、新たな取り組みについて共に考えて行けるよう活動しています。

これまでには、性のことを自分も他者も理解することの大切さ、障がいのある人と理解し合い共に過ごすことの大切さ、生きることの大切さ、SOSを発信することの大切さ、加害者にも被害者にもならないために大切なこと、貧困を社会で支えることについて考えています。



【記載例】



(該当するテーマ（複数可）を貼り付けてください)

(テーマを記載してください)

○○学部 教授 ○○ ○○

(SDGsに関する取組の概要を400字程度でまとめてください。)

写 真

写 真

(写真があればご提供ください。ホームページに掲載しますので、掲載許可をとってあるものをお願いします。)

※A 4 版 1 枚に纏まるよう作成をお願いします。

該当する目標にご利用ください。





持続可能な社会の構築に向けた学校現場での 教育実践とその研究

教育学研究科 教授 松本 一郎

松本研究室では過去19年にわたり地域の小学校を中心に幼稚園・保育所、中学校、高等学校において、特に野外学習支援を通じた自然環境教育とその研究に力を注いできました。特に、理科授業や総合的な学習の時間を中心に、従来学校で学ぶ内容のうち「環境意識」についてそれを向上させるような、授業実践の研究・開発に尽力しています。幼稚園や保育所での泥団子実践（土壌教育）からはじまり、自然の恵みと災いの二面性を実際の大自然の中で学ぶ学習支援を行っています。

以上のような実践保育や授業を通して、児童・生徒に、地球環境の大切さ、人間社会の在り方・方向性などを自分事として実感してほしいと考えています。また、実感を伴った学びを通して、主体的に考え、行動できる人材が社会の中で増えてほしいと願っています。また、定期的に松江市環境フェスティバルのような市民が学べる場においても、学生・院生とともに出展し、日頃の教育・研究成果の普及に努めています。

